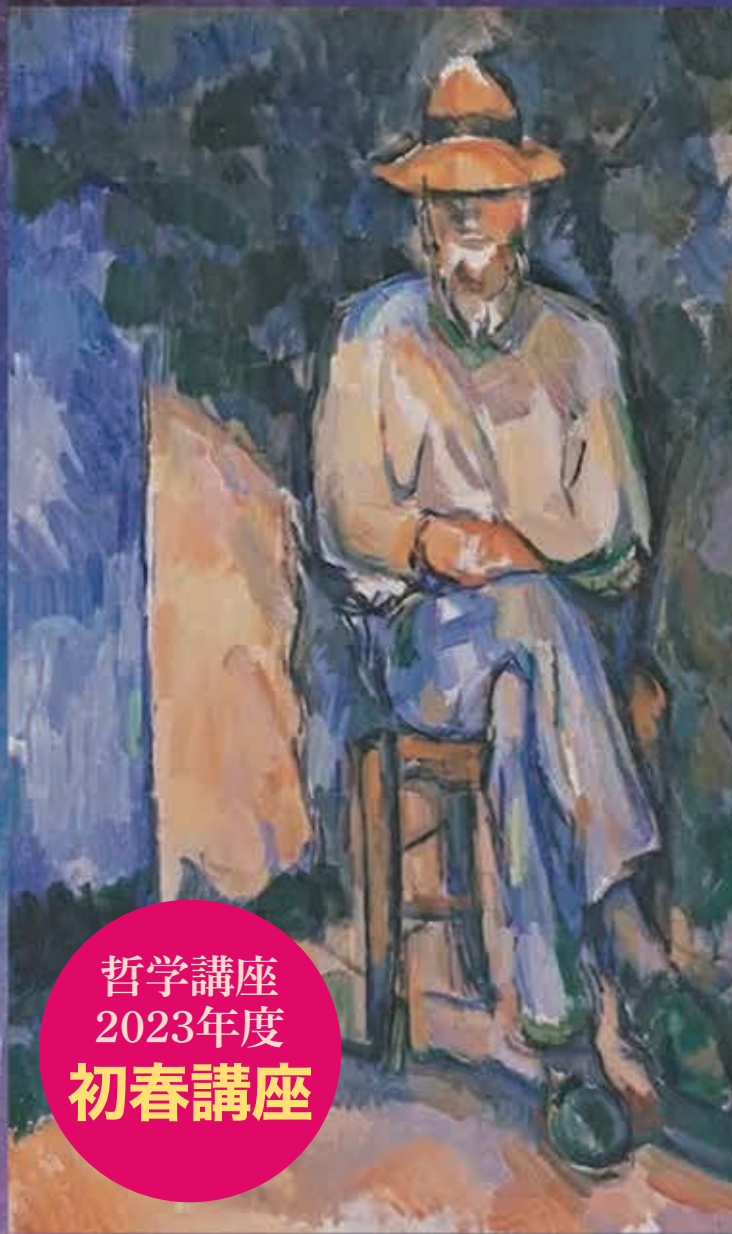


ハイデッガー哲学と芸術



哲学講座
2023年度
初春講座

講師 せき ぐち ひろし 関口 浩 (早稲田大学講師)

専門は哲学、美学。本研究所研究員。翻訳書としてハイデッガー『芸術作品の根源』、同『技術への問い』(平凡社ライブラリー)、J・ロード『ジャコメッティの肖像』(みすず書房)など。ハイデッガーに関する論文多数。本研究所の秋富克哉理事長(京都工芸繊維大学教授)とともに『ハイデッガー事典』(昭和堂)の編集に携わった。また、本研究所の大橋良介所長、秋富理事長とともに『ハイデッガー全集』(東京大学出版会)の編集に携わる。

オンライン配信のみの開催となります。

主催 公益財団法人日独文化研究所

申込期間 2024年1月9日から
2月9日まで

日独文化研究所ホームページ、
電子メールにてお申し込みください。(裏面参照)

受講料 (全6回分)

一般 12,000円 学生、大学院生、OD 6,000円

本研究所の賛助会員の方は3割引の受講料にて受講いただけます。
加入希望の方はお知らせください。

市民一般に
開かれた講座です。
どなたさまも自由に
ご参加
いただけます。

ハイデッガーは『存在と時間』(1927年)において古代以来の存在論をあらためて問いました。その成果にもとづいて、彼は1930年代に入ると、哲学的思索と芸術とがともにこの〈存在〉に応答するものであると解し、芸術についての対話的考察を試みました。この講座では、こうしたハイデッガー独自の芸術論を講演『芸術作品の根源』(1936年)を中心に紹介したいと思います。

2月15日(木) 18時30分～20時15分

第一講

ハイデッガーによる
芸術論の概要

2月22日(木) 18時30分～20時

第二講

『芸術作品の根源』(1)
——ゴッホの絵画を例に

2月29日(木) 18時30分～20時

第三講

『芸術作品の根源』(2)
——古代ギリシアの神殿を例に

3月7日(木) 18時30分～20時

第四講

詩人論
——ヘルダーリン解釈を中心に

3月14日(木) 18時30分～20時


第五講

晩年の芸術論
——セザンヌへの関心を中心に

3月21日(木) 18時30分～20時

第六講

音楽への問い
——武満徹との比較

 18時30分から
オンライン配信

終了予定 20時

(初日2月15日は開講挨拶があるため、
20時15分終了予定)

みなさまのご参加をお待ちしています。

お申し込みについて

電子メールの場合、下記内容を入力の上、送信してください
(koza@nichidokubunka.or.jp)。

■哲学講座2023年度 初春講座（全6回）の受講を希望します。

ふりがな		
氏名		
性別		(任意記入)
年齢		(任意記入)
所属先		勤務先またはご職業
		学生・大学院生・ODの場合（ODは出身の教育機関を記入） 大学・大学院 学部 専攻 回生
連絡先	郵便番号	
	住所	自宅・所属先
	電話番号	() ー 自宅・所属先・携帯
	電子メール	
受講方法		オンライン配信のみの予定です。 *オンライン受講が初めてという方には事務局にて事前に講習会を行います。 *一部日程が合わない場合、部分的に録画配信により受講することも可能です。 お気軽にお問い合わせください。

■ 申込期間 ■

2024年1月9日から2月9日まで

受講料は口座振込でお支払いいただきます。原則お返しできません。

一般 12,000円

学生・大学院生・OD 6,000円